

JST 理事長 記者説明会

令和2年 10月 14日



科学技術振興機構

サイエンスアゴラ2020の 開催について



科学技術振興機構

サイエンスアゴラ2020 開催概要

□ **開催期間**：11月15日（日）～22日（日）（8日間）

（※）会期前の11月13日（金）・14日（土）を「プレアゴラ」と位置づけ、在日スイス大使館主催のサイバスロン大会やIVRC企画、注目企画等を紹介する「アゴラ前夜祭」を開催

□ **開催方式**：オンライン

（①Zoomウェビナーによるライブ配信 ②録画済み動画の公開）

□ **企画数**：約100企画

□ **テーマ**： **Life**

□ **協賛**：旭化成、学研ホールディングス、日本IBM、NEC、NTT、エルゼビア・ジャパン

□ **特別協力**：在日スイス大使館（プレアゴラとして企画出展）

□ **後援**：内閣府、外務省、文部科学省、経済産業省、日本学術会議、日本経済団体連合会、国立大学協会、日本私立大学団体連合会、理化学研究所、産業技術総合研究所、ジャパンSDGsアクション推進協議会、2025年日本国際博覧会協会

注目企画：開幕セッション

「With/Postコロナ社会の社会像と科学技術」（仮）

日時：11月15日（日）10:00-12:00

概要：新型コロナウイルス感染症は、私たちの「Life（生命、生活、人生）」を瞬く間に危機へ直面させるとともに、生活基盤や社会システムの脆弱性を露呈させました。急速に社会やライフスタイルの変容が進みつつある中、私たちはどのような未来社会像を描くべきか。明るい未来社会を支えるために求められる科学技術イノベーションは何か。Science for global well-being、No one left behind、inclusivenessの観点を踏まえて、有識者の皆さんとともに議論します。※同時通訳あり

登壇者：（50音順・敬称略）

浅川 智恵子（IBMフェロー）

篠原 弘道（NTT取締役会長、総合科学技術・イノベーション会議議員）

タカハシ ショウコ ※ファシリテーター（インキュビオンCEO、サイエンスアゴラ2020推進委員）

富山 和彦（経営共創基盤 IGPIグループ会長、JST ACCEL研究開発運営委員）

濱口 道成（JST理事長）

広井 良典（日立京大ラボ、京都大学こころの未来研究センター教授）



注目企画：国立研究開発法人協議会シンポジウム 「with/postコロナ社会を生き抜くために」

日時： 令和 2年 11月 19日（木） 15:45-17:15

概要： 世界中がコロナウィルス感染症対策と社会経済活動を両立できる新たな生活様式を模索している中、コロナウィルス感染症に関する研究等を行っている国立研究開発法人を中心に、with/postコロナ社会で生き抜くための研究や取組について紹介するとともに、コロナ社会において国民生活に必要なこと、大切なことについて話し合う。

登壇者：	挨拶	国立研究開発法人協議会 会長 平野俊夫 (量子科学技術研究開発機構 理事長)
	基調講演	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) 研究開発統括推進室長 岩本愛吉
	講演	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 理事長 荒井秀典 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長 國土典宏 国立研究開発法人 理化学研究所 計算科学研究センター長 松岡聡

注目企画：ジュンアシダ賞企画

第2回輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞） 表彰式&トークセッション

日時：11月15日（日）13:00-15:00

概要：これからの社会は、様々な分野での女性の活躍に期待が高まっていますが、日本では研究者に占める女性の割合が低く、研究開発プログラム等への参画も少ない状況です。そこでJSTは、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究等を行っている若手女性研究者と、女性研究者の活躍を推進している機関を表彰します。また、受賞研究者と機関代表者と、高校生を中心とした次世代とのトークセッションも併せて行います。

「STI for SDGs」アワード企画

STI for SDGs ～地域の社会課題の解決に向けて～

日時：11月19日（木）13:00-15:00

概要：科学技術イノベーション（STI）を用いた地域における社会課題の解決、SDGsの達成に向け、実際に活動を行っている取組を表彰する「STI for SDGs」アワードの今年度受賞者の取組を紹介。各団体の取組代表者による取組紹介に関するプレゼンテーションやパネルディスカッションを実施し、STI for SDGsの流れを促進します。

登壇者：

「STI for SDGs」アワード

令和2年度受賞取組代表者

蟹江憲史 慶応義塾大学大学院教授

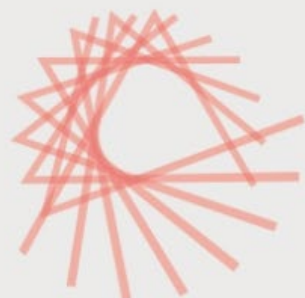
（選考委員会 委員長）

2025年日本国際博覧会協会（予定） 他

推進委員会委員による推薦企画

タイトル	出展者名	日時・形式
徹底討論！日本の有人宇宙開発 宇宙は人が行くべきか	日本宇宙少年団さくら分団	11/15（日）13:00～15:00
温かさってなに?～機械と人の温かさを考えるオンラインワークショップ～	日本大学文学部、日本科学未来館	11/16（月）18:00～19:30
「究極」のイチゴ、量子科学技術でお届けします	量子科学技術研究開発機構	11/19（木）18:15～19:45
JT-60SAバーチャルツアー～世界最大の超伝導核融合実験装置を見にいこう！～	量子科学技術研究開発機構	11/21（土）10:00～11:30
対話×謎解きゲーム「エネルギー危機からの脱出」	北海道大学CoSTEP15期謎解き推進委員会	11/21（土）10:00～12:00
障害を持つ学生にひらかれた科学	東京大学	11/21（土）15:30～17:00
研究者と語ろう ～新型コロナウイルス（COVID-19）免疫学的視点×ウイルス学的視点～	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 微生物病研究所	11/21（土）17:00～19:30
“エコヘルス”から考えよう。新しい生活様式。	総合地球環境学研究所（地球研）	11/22（日）13:00～14:30
飛ぶ吹きゴマについて	飛ぶ吹きゴマ研究班（岡山県立倉敷天城高校2年）	11/22（日）14:30～15:30
オンラインで標本に触れる!?～「感覚の転送」技術でできること～	北海道大学CoSTEP16期有志の会	11/22（日）15:30～17:00

サイエンスアゴラ2020 特設サイト



SCIENCE AGORA 2020

科学と社会の関係を深める10日間

A future woven through dialogue between science & daily life

オンライン開催
無料配信
Free Streaming

PRE AGORA 2020.11.13[Fri]—14[Sat] / SCIENCE AGORA 2020.11.15[Sun]—22[Sun]

11/15(日)

● 9:00~

ライブ配信

9:30 ~ 16:00

LIVE 配信

グローバルサイエンスキャンパス
全国受講生研究発表会
科学技術振興機構
理数学習推進部

企画概要はこちら



動画を見る



ライブ配信

10:00 ~ 12:00

LIVE 配信

【主催者】
開幕セッション
科学技術振興機構

企画概要はこちら



動画を見る



□ サイエンスアゴラ2020特設サイト内の「タイムスケジュール」から参加したい企画の「企画概要はこちら」を選択

□ 「このセッションに参加する（事前登録）」を選択しメールアドレス等必要事項を入力

→後日、Zoom Webinar URLが送付される

□ 事前登録がなくともYouTubeでのリアルタイム視聴やアーカイブ視聴は可能

(サイトURL)

<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2020/>

第2回輝く女性研究者賞 (ジュン アシダ賞)

令和2年10月14日



科学技術振興機構

概要

趣旨

女性研究者の活躍を推進する取り組みの一環として、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究などを行っている女性研究者及びその活躍を推進している機関を表彰。2019年創設。なお、芦田基金(※)より、副賞100万円提供のご協力をいただきます。
※ 1994年にデザイナーの故 芦田淳 氏から青少年育成を目的として公益社団法人科学技術国際交流センター(JISTEC)に寄附され、JISTECが運用している基金

対象者(自薦／他薦ともに可)

・【輝く女性研究者賞】

:女性研究者 1名

原則40歳未満

(ただしライフイベントによる研究活動休止期間を勘案)

・【輝く女性研究者活躍推進賞】

:機関 1機関

女性研究者の活躍推進に貢献する、他機関のモデルとなる取り組みを行っている機関

選考委員



鳥居 啓子(委員長)

テキサス大学オースティン校
Johnson and Johnson Centennial 冠教授
ハワードヒューズ
医学研究所(HHMI)正研究員



浅川 智恵子

IBMワトソン研究所
IBMフェロー



阿部 玲子

オリエンタルコンサルタンツ
グローバルインド現地法人
取締役会長



大草 芳江

有限会社 FIELD AND
NETWORK 取締役
特定非営利活動法人
natural science 理事



北川 宏

京都大学
大学院理学研究科
教授



所 千晴

早稲田大学
理工学術院 創造理
工学部
教授



村山 斉

米国カリフォルニア大学
バークレー校 教授
東京大学国際高等研究
カブリ数物連携宇宙研究機構
(IPMU)
教授・主任研究者



柳沢 正史

筑波大学国際統合
脳科学研究所
機構長

特徴及び選考の観点

輝く女性研究者賞(女性研究者)

- ✓ 原則40歳未満の若手女性研究者を対象とする
(ただし、ライフイベントによる研究活動休止期間を勘案)
- ✓ 研究の実績、成果のほか、研究以外に社会に好影響を与えた活動にも焦点を当てる
- ✓ 科学技術に関連していれば分野は問わない

輝く女性研究者活躍推進賞(機関)

- ✓ 女性研究者の活躍を推進する機関を表彰する

【選考の観点:女性研究者】

- 研究の実績
- 研究における独創性・チャレンジ姿勢、将来性や課題解決への貢献
- 研究以外の社会貢献等(人材育成・環境整備など)
- 国際的な視野(海外での経験や海外研究機関との連携など)

【選考の観点:機関】

- 他機関のモデルとなり得るか
- 他機関との連携など、広がり
- 取り組みの効果・成果

応募状況及び受賞者決定

応募状況

応募期間 4月1日～6月30日

応募状況 輝く女性研究者賞(女性研究者) 78件
輝く女性研究者活躍推進賞(機関) 12件

選考・受賞者決定

- ・ 選考 7月上旬～8月中旬
- ・ 受賞者決定
輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞) 1名
輝く女性研究者活躍推進賞(ジュン アシダ賞) 1機関
選考委員会において輝く女性研究者賞に匹敵すると評価できる応募者がいたことから、
輝く女性研究者賞(科学技術振興機構理事長賞)1名の受賞者を決定。
輝く女性研究者賞(科学技術振興機構理事長賞) 1名
- ・ 受賞者・受賞機関発表
【プレスリリース】2020年10月14日
第2回輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)受賞者の決定と表彰式開催について

第2回輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞) 受賞者

年齢: 2020/04/01時点

■ 受賞者及び表彰内容 坂井南美(39歳)

理化学研究所 開拓研究本部 坂井星・惑星形成研究室 主任研究員
JSTから賞状及び盾を授与。副賞として芦田基金から賞金100万円を授与。



■ 受賞理由

- 物理的手法が主であった天文学に分子組成変化を分光観測により捉えるといった化学的手法を採り入れ、惑星系形成の解明に革新的な成果を挙げるなど、化学と天文学を融合する新しい分野を果敢に開拓している。
- アルマ望遠鏡を用いる大型プロジェクトを立ち上げ、外国人研究者が大半を占める中でプロジェクトを取りまとめるなど、日本に居ながらも十分に国際性を兼ね備えている。
- 講演会などのアウトリーチ活動や女性活躍推進への貢献、後進育成等の社会貢献活動も実績が認められる。

■ プロフィール

➤ 専門分野 天文学

➤ 主な経歴

2004年 早稲田大学理工学部物理学科 卒業

2007年 日本学術振興会特別研究員(DC2)

2008年 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程
早期修業年限特例にて修了。同大学助教就任。

2015年 理化学研究所 准主任研究員。2017年より現職。

➤ 主な受賞歴

2018年 文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP) 科学技術への顕著な貢献2018(ナイスステップな研究者)

2013年 日本天文学会 研究奨励賞

2009年 財団法人 井上科学振興財団 井上研究奨励賞

第2回輝く女性研究者活躍推進賞(ジュン アシダ賞)受賞機関

- 受賞機関及び表彰内容 国立大学法人群馬大学(学長 平塚浩士)
JSTから賞状及び賞牌を授与。

■ 受賞理由

- 「まゆだまの10年(2013～2022)」という中長期の視点により、女性研究者はもとより全学構成員の活躍を恒常的に支援する方針の下、理工学府の女性限定公募制度、また医学系女性研究者の上位職ポストアップシステムなどの地道な支援が継続され、博士後期課程の女性比率、女性教員比率ともに増加している。
- また、大学独自の研究費助成に関して、支援を受けた女性研究者1人あたりの科研費について、獲得実績の対男性研究者比較や翌年度の採択率分析がなされ、支援継続の効果を実証した点は、女性研究者の研究力に関する無意識のバイアスを是正するものであり高く評価する。
- 群馬県内の他機関との連携も、地域を巻き込んだ活動のロールモデルとして、他機関への波及効果が大きい。

■ 主な取り組み、成果

- 研究支援、育児、介護、託児、共同研究のマッチング支援等、女性研究者の活躍に向け詳細な支援制度を設置。
- 2014年度から理工学府で初の女性限定公募を実施。その成果として、博士後期課程の女子学生の割合が2019年度に25.8%に達した(2019年度)。
- 大学独自の研究助成継続が、科研費獲得実績、採択率に効果を発揮していることを分析。
- 女性研究者在籍比率は2013年以降、年平均約1%ずつの増加。

Best Practice 独自の研究助成継続が確実に効果を発揮

群馬大学独自の研究助成女性採択者の
翌年度の科学研究費採択状況

助成金 利用年度	翌年の科研費採択数(女性) /研究助成採択数(女性)	科研採択率
2012 H24年度	1/15	6.7%
2013 H25年度	3/14	21.4%
2014 H26年度	2/12	16.7%
2015 H27年度	3/10	30.0%
2016 H28年度	5/13	38.5%
2017 H29年度	6/14	42.9%
2018 H30年度	6/13	46.2%

成果

支援を継続することで
翌年度の採択率に
結果が反映されている

* 研究・産学連携戦略推進機構が平成24年度より継続実施

第2回輝く女性研究者賞(科学技術振興機構理事長賞)受賞者

■ 受賞者及び表彰内容 星野歩子(37歳)

年齢: 2020/04/01時点

東京工業大学 生命理工学院 准教授

表彰内容: JSTから賞状及び盾を授与。



■ 賞贈呈理由

- がんが組織特異的に転移先の環境を準備するメカニズムに、がん細胞が放出したエクソソーム(細胞外小胞)が関与することを世界で初めて明らかにした、特筆すべき成果を挙げている。
- 計8年半の海外研究経験に基づく国際的視野を兼ね備え、国境をまたいだ学生の受け入れを通じて世界で活躍できる研究者の育成に尽力するなど、社会貢献も十分に実施している。

■ プロフィール

➤ 専門分野 分子生物学

➤ 主な経歴

2006年3月 東京理科大学理学部応用化学科 卒業

2011年3月 東京大学新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 博士課程 修了(生命科学博士)
米国ニューヨーク州コーネル大学にてポスドク、
インストラクターを経て現在、兼任助教

2019年4月 東京大学 IRCN 講師 東京大学卓越研究員

2019年4月-現在 さきがけ研究者

2020年3月-現在 東京工業大学生命理工学院 准教授

➤ 主な受賞歴

2011年 Keystone Symposia Scholarship Award

2011年 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 博士論文特別奨励賞

2020年 第22回大学女性協会守田科学研究奨励賞